

1/29 朝日 (4)

米原潜の放射能測定調査

でっち上げの疑い

不破氏
が追及 首相らも非を認める

米原子力潜水艦の入港に伴う安全調査がきわめてさまざまな方法で行なわれ、政府もそれをつのみにして

きた事実が二十九日の衆院予算委員会でも明らかにされた。共産党の不破書記局長が、科学技術庁から委託されている民間の研究所の調査結果を取り上げ追及したもので、森山科学技術庁長官は事実を

認め、田中首相も「今後は万全を期したい」と頭を下げた。
米原潜は、たゞは横須賀港にいても毎年二十隻前後が入港しているが、政府は入港のたびに地元、県、市などを協力して空中、海

中の放射能調査をするともに、海底土の分析調査をして安全性を確かめている。

不破氏によると、科学技術庁が海底土などの分析を委託している日本分析化学研究所の分析は①原潜の入港日と測定日がずれており、測定結果に信頼が置けない②測定装置が故障しているのに報告では、この装置を使つたとされている③違う種類の原潜について測定結果が同じになっている一など、不破氏が専門の科学者に鑑定してもらつたところ「科学的にはあり得ず、でっち上げの疑いが濃い」という。

田中科学技術原子力局長は不破氏の指摘した事実を認め、この研究所が去年発覚した科学技術庁の汚職事件にからんでいたこともあって「同研究所の体質刷新を行うとともに、分析委託を一部、他の研究所に切り替える」と述べた。

不破氏はさらに、同研究所に対して環境庁はじめ関係省庁から原子力発電所の安全性、POB、水銀、農薬など公害問題関係の調査研究が委託されていることを指摘し「公害行政がこのような研究所の調査研究を基礎にしているのは重大な問題だ」と追及、政府が学術会議など公的な機関を活用するよう要求した。また、衆院予算委員会に証人喚問、現地調査を行うよう提案、同委員長会に検討するよう求めた。

原潜放射能の
デタラメ測定

関係者にシラケ

1/30
毎日

原発建設に影響か

科学の名のもとに嵐と行われ
ていた放射能測定データのうち
あは。しかも当事者は、放射能は
かりか水銀、PCB、農薬……
と、さまざまな汚染物質の分析を
手広く引き受けている国内でも指
折りの分析センター。――二十九

日の衆院予算委で不審三氏（共
産）が明らかにした財団法人日本
分析化学研究所のデータねつ通事
件に関係者は大ショック。「あん
なにでならめとは……。全くやり
きれない」（川口寛之・伊方原発
反対八西連絡協議会長）「本当だ

とすれば依頼した自治体も裏切る
もの」（横田博忠・群馬県企画部
長）など怒りと驚きが渦巻いた。
最も大きなショックを受けたの
は監督すべき立場にある科学技術
庁当局。田宮茂文局長は「あの研
究所は汚染事件の直後に立ち入り検

査して、化学分析の方はちゃんと
やっていることを確かめたが、機
器分析の方は全く知らなかった。
青天のへきれきです」と困惑の色
を隠そうとしない。
同日ではこの日、原子力委員会
が開かれていたが、報告を受けた

分析化研の存廃 含め措置とる

科技庁長官

原潜放射能の「でたらめ測定」
を追及された科学技術庁の森山長
官は、二十九日午後、早急な立入
り調査を指示、同日夕の記者会見
で「結果によっては分析化学研究
所の存廃も含めた処置をとると

同時に同庁の責任者の処分を早急
に決定する」との決意を明らかに
した。衆院予算委員会では、不
破委員の要請を受けて衆議院委員
が予算委員会独自の調査を理事等協
議のうえ実施する方針であること
を示し、同時に森山長官に厳重訓
告を強く要請した。同長官はた
ちに立入り調査を命じ、三十一日
までに報告書を要する。

井上委員長代理は各委員は、異口
同音に「ひどい話だね」とあい
た口がしばらくふさがらなかった
という。「ちがった資料で同じ分
析のグラフが出てくるなんて、学
生実験だって、そんなバカなと

に、ショックは大きい。
これに対し、原発建設に反対し
ている周辺住民は「原発の安全性
はますますあやしくなった」と警
戒心を高めているが、川口寛之伊
方原発反対八西連絡協議会長は
「原子炉事故などについて真実は
知らされていないと薄々感じてい
たが、あんなとらめとは思わな
かった」とびくびくした様子。

茨城県東海村に建設中の再処
理工場に反対している水戸市河和
町二五三六、寺沢雄雄さん（左）は
「国民の安全を無視し、独占企業
や会社の意向に従う日本の原子力
行政の現れた。東海二号炉の安全
審査も科学技術庁のデータと安全

専門審査会の部会のデータが一致
しないなどおかしい点がある」と
不信感を強めている。

原発反対若狭湾共同会議代表委
員、吉村清氏（右）は「教習地区労働
組合も『日本分析化学研究所は教
習所のPCB汚染状況も調査して
おり、この方のデータも正しい数
値だったかどうか大いに疑問に
思っている。』

一方、学界でもこの問題を注
目。日本学術会議科学の基本問題
委員長、大谷省三東京農工大教授
は「私も国会中継を見ていたが、
こんなことが科学の名のもとに行
われ国民を欺くことは絶対に許せ
ない」と声をあげるわていた。